

お笑い種のオーストラリア外交＝ポール・キーティング豪元首相

オーストラリアは先ごろ、米英両国と新たな軍事同盟（AUKUS）をむすび、中国に対抗するため、米国から原子力潜水艦の提供をうけることになりました。これにたいして同国のポール・キーティング元首相が辛辣な批判をおこないました。以下はその要旨を報じた豪紙ガーディアン（11月10日付）の翻訳です。

オーストラリアのポール・キーティング元首相は11月10日、ナショナル・プレス・クラブで講演し、米国と英国の支援を受けた原子力潜水艦（導入）計画を非難し、オーストラリアの政党が外交政策で混迷していると批判、議論が情報機関に支配されているため、中国についての国民の認識が正道からはずれていると述べました。演説の重要な部分を紹介します。（ガーディアン）



オーストラリアは「道に迷った」

この国は今、その地理と相いれなくなつて道に迷っています。我が国にとって、これまでどの国も持ちえなかったような最大の贈り物は、島国であること、自分自身の大陸をもって、だれとも国境を接していないことです。それを維持するために必要なのは、その中にいること、地域にいて、地域にいて幸せになることです。なんとという贈り物なんでしょう。ところが、どうもちがう。この国はいま、地域にいて、地域にいて幸せを感じていなくなっている。いまだに安全保障をアジアの中にあることではなく、アジアから身を守ることに見つけようとしています。モリソン首相は（G7首脳会議に）（英国の）コーンウォールに戻っていきました。かの地は、（英国の海洋探検家）ジェーム

ズ・クックが 245 年前に出発し、（英国の初代オーストラリア総督）アーサー・フィリップの最初の艦隊が 233 年前に出発した所です。

地域を自分のものとして享受し、その一部になる能力がない、これまでここでやってきたという事実を祝うことができない。恐るべき不面目をさらけだしました。要するに、オーストラリアにとってもっとも重要で、戦略的生息地であるべき地域は、インドネシア諸島です。オーストラリアの北部を横切る弧を描いたこの地域には 2 億 500 万人が住んでおり、ASEAN の中心です。

ここは私たちにとって最も重要な場所です。それなのに一種の虚構にとらわれています。いわゆるインド太平洋（構想）と呼ばれるものです。大きな長方形の箱のように、箱の一方の端にはインドがあり、ボックスの（オーストラリアと）反対側は日本です。ところがこの構想は、言い換えればインドネシアと ASEAN という箱の真ん中に焦点を当てていません。私たちは一方の端にあって、これは公園のシーソーのようなものです。私たちは不安定な端にあって、真ん中の中軸にいない。インドが南シナ海に艦隊を送って、中国から私たちを守ることは絶対にありません。

一握りのつまようじを山になげるようなもの

（豪政府が英米と新たな軍事同盟 AUKUS を結び、それによって）中国に対抗する 8 隻の原子力潜水艦を 20 年かけて手に入れても、それは一握りのつまようじを山に向かって投げるようなものです。シノディノス駐米オーストラリア大使が話しているのは、攻撃型潜水艦で中国の潜水艦を封じ込める、彼らを攻撃し、撃破することです。

それはオーストラリアの防衛とどういう関係があるのでしょうか。8 隻の潜水艦で我が国は軍事的にどのような影響をうけることになるか。（AUKUS 同盟によって米国から提供される）バージニア級潜水艦は 1990 年代に設計されました。6 隻を確保するのは、2045 年か 2050 年になります。その時は 50 または 60 歳になります。言い換えれば、私たちの新しい潜水艦は、古い技術になるのです。古い 747 を購入するようなものです。最初の一隻を入手するのに 20 年待ち、一組を確保するのに 35 または 40 年かかるのですから、その時は非常に古いものになっているのです。

実際、世界で最も新しい潜水艦は、最新設計の潜水艦で、それはフランスの低濃縮原子力潜水艦です。賢明に見て考えていたら、（オーストラリア海軍が保

有している) 3,500 トンのコリンズ型潜水艦以上のもの、4500 か 5000 トンのものが必要です。ディーゼルが不満なら、明らかな選択は、最も近代的な、計画中の潜水艦であるべきで、それはフランスの原子力潜水艦です。

いや、いや、私たちは急いでいるのです。(モリソン首相の) 自由党はこういはいはっています。今やアメリカに戻るのだ。旧式のデザインに戻るのだと。しかし、これらのハンターキラーの潜水艦は、中国の原子力潜水艦がマリアナ海溝に潜って見えなくなる前に補足し、中国の大陸棚の浅瀬にとどめておくためのものです。言い換えれば、中国が米国に対する第二撃の核能力を持たせないためです。これはいま私たちが参加しているゲームなのです。(オーストラリア海軍が保有している) コリンズ級潜水艦のゲームはオーストラリアの防衛でした。ところが(アメリカの) バージニア級潜水艦による戦いでは、中国の潜水艦とのハンターキラーのゲームになるのです。これは私たちの対外関係全体を変えます。

台湾の防衛はオーストラリアの利益ではない

台湾はオーストラリアにとって死活的な利益ではありません。台北と同盟関係にあるわけではないし、同盟関係を規定するような文書はオーストラリアには一片もありません。我々は台湾を主権国家として認めておらず、常に台湾は中国の一部とみなしてきました。

米英豪の AUKUS 同盟は、米軍への攻撃があった場合の協議を取り決めています。が、米軍による攻撃については何もありません。これは非常に重要なポイントです。私は、オーストラリアは米国主導であれ、その他であれ、台湾での軍事的な交戦にせつたいに引き込まれてはならないと考えます。

中国が台湾を攻撃し、または介入するのは、アメリカと台湾が台湾の地位の変更を企て、そう宣言する場合に限られます。

中国の戦狼外交について

これは中国外交の粗野で青臭い側面を表しています。彼らはいたるところで(男性ホルモンの一種である) テストステロンを發揮しています。しかし中国のパワーは、世界のなかでもこの地域で非常に深いので、我々はそれらに対処しなければなりません。

北京との関係再構築について

少なくとも中国を尊重すべきでしょう。中国が望んでいるのは、彼らが作り出したものに対する敬意だと思います。我々が中心に考えるべきことは、中国の台頭は完全に有効であるということです。中国人が望んでいるのは、彼らが成し遂げたこと、作り出したことの合法性を認めてほしいということです。すなわち植民地時代の過去と貧困から脱出した中国の台頭の正当性です。

中国と人権「会話全体にはなれない」

人権については常に発言すべきであり、中国のウイグル人であれ人権について発言する権利を常に留保すべきです。それはカシミールのイスラム教徒についても言えることです。インドのモディ首相は私たちの新しい友人ですが、彼は人口の94%がイスラム教徒であるカシミールの自治を否定しました。しかし（オーストラリアの新聞）シドニー・モーニング・ヘラルドやエイジには怒りの波はありません。つまり、インドは同盟国だから、同盟国については語らないで、理念上の敵についてだけ語るのです。私は、オーストラリアは常に（人権を）支持して発言すべきだとおもいますが、これは重要なポイントです。私たちは、これらの諸国の市民の権利について大いに発言をすることはできますが、それがすべてにはなりません。言い換えれば、人権に関する議論を、両国間の議論のすべてに完全に置き換えることはできないのです

終身大統領としての習近平「調和への信念」

まあ、それは権力にとどまるための良い方法だと思いますが、私のやり方ではありません。私は実際に、共同体には政府を解散させる権利があると考えています。しかし、中国は広く調和と権威を信じる儒教社会であることをわすれてはなりません。中国共産党の役割を人々が広く受け入れるのにはこの背景があるのです。つまり、地元での選挙がない、ジェファーソン流のリベラルではないのはみんな野蛮人だと考えていると、中国には終身権力についてそういう特徴をもつ4,000年の歴史があるということがわからなくなってしまうのです。

英国のインド太平洋への傾斜は「古いテーマパーク」

ご存知のように、ここに私たちの古い友人がいます。彼の名前は何と行ったかな。英国の（ジョンソン）首相はコーンウォールで次第に叙情的になっています。つまり、イギリスは現代中国と比べると、大西洋に滑り落ちていく古いテーマパークのようなものです。中国は巨大になるでしょう。

中国対米国「お笑い種だ」

2020年10月、IMFは年次報告書で中国を世界最大の経済大国に指定しました。それによると中国経済は現在、米国よりも20%も大きく、比率は24対20です。この報告はCIAも承認しています。IMFとCIAが中国は今米国よりも20%大きいと言っているのです。これらは核心となる数字です。アメリカの一人当たりのGDPは\$60,000です。中国は1万ドルです。中国が安価な製造品の古いモデルから抜け出すにつれて、彼らの収入は増加していきます。しかし、一人当たり10,000米ドルで、中国は米国より20%大だとすれば、中国が2万ドルに到達するには何年かかるでしょう。6万ドルではありませんよ。非常に都市化された経済では、おそらく10年くらいでしょう。一人当たり20,000米ドルに到達すれば、経済規模は米国の2.5倍になるでしょう。その中国にむかって米国はいうのです。「それらの数字は非常に興味深いですが、いいですか、中国人のみなさん、行儀よくしていれば私たちのシステムの利害関係者になれるのですよ」と。これにたいしては、習近平ならずとも中国のナショナリストならいでしょう。「はっきりさせましょう。中国はすでに米国より1.25倍大きいのですよ。間もなく2倍になります。いや2・5倍になるかもしれません。それなのにあなたは米国の利害関係者にしてやるという。マジですか」。まさにお笑い草ではありませんか。

中国論議は「幽霊に影響されている」

オーストラリアの公開討論は、人々を怯えさせる幽霊のような人たちの影響を受けています。キャンベラでの現在の外交政策の議論は、治安機関から情報提供されているので、中国の実際の姿はどのようなか、全体像を知らされていません。中国が望んでいるのは、正面玄関にある台湾と海であり、そこにアメリカ海軍が影響を及ぼしてほしくないということです。海岸からでて太平洋のマリアナ海溝のより深い海域にアクセスしたいと考えているのです。根本はそこにあります。(以上)

なおロシア系メディアのRTはキーティング元首相の発言の要旨を以下のように伝えている。

オーストラリアは最近「道に迷い」、「私たちの地理と対立している」。

オーストラリアは現在、意味のある形で「アジアの一部になることができない」。

オーストラリアと米国は、中国の世界的な「経済的卓越性」を受け入れなければならない。

中国は、東南アジアやその他の地域での軍事的拡大には関心がない。それは単にその領土保全を維持したいだけであり、それは正当な目標である。

中国には、外国への軍事介入の歴史はない。米国がイラン（1953年に民主的に選出されたモサデグ政権を解任するため）、ベトナム、イラク、アフガニスタン、およびアラブの春の間、中東全体に悲惨な介入を行ったのとは異なっている。

中国はオーストラリアに軍事的脅威を与えていない。

中国が望んでいるのは、経済世界秩序の改革であり、転覆ではない。

台湾はオーストラリアにとって重要な戦略的利益ではない。オーストラリアは台湾と条約を結んでおらず、また台湾を主権国家として認めていない。

アメリカの世界的権力は衰退しており、主にドナルド・トランプのおかげで、アメリカの民主主義は崩壊の危機に瀕している。

アメリカが台湾をめぐる中国と戦争をするかどうかは疑わしい。

とはいえ米国は依然として東南アジアで果たすべき役割を担っている。

フランスもまた、インド太平洋で果たすべき重要な戦略的役割を持っているが、オーストラリアはフランスにきわめて酷い仕打ちをした。

オーストラリアは、中国およびフランスとの関係を再構築する必要がある。

オーストラリアの外交政策は、現在それを構成している治安機関内の冷戦の戦士の手から取り戻さなければならない。

中国とフランスに関連するオーストラリアでの最近のメディア報道は「ぞっとする」ものだった。

(以上)

【翻訳 田中靖宏】